

## 「令和2年7月豪雨」の観測記録について

～降水量の総和と50mm以上の発生回数の記録を更新しました～

「令和2年7月豪雨」により、旬ごとの値として、7月上旬に全国のアメダス地点で観測した降水量の総和及び1時間降水量50mm以上の発生回数が、共に1982年以降で最多となりました。

「令和2年7月豪雨」では、梅雨前線が長期間停滞し、暖かく湿った空気が流れ込み続けたため、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨となっています。

比較可能な全国964のアメダス地点を対象として、2020年7月上旬（1日～10日）に観測された降水量について1982年以降の旬ごとの値と比較したところ、以下のとおりでした。

- ① 対象地点の7月上旬の降水量の総和について、これまで最多であった「平成30年7月豪雨」（2018年7月上旬）の記録を超え、今回が最も多い値（降水量の総和：208,308.0mm、1地点あたり：216.1mm）となりました。
- ② 対象地点の7月上旬の1時間降水量50mm以上の非常に激しい雨の発生回数について、これまで最多であった「令和元年東日本台風」（2019年10月中旬）の記録を超え、今回が最も多い回数（82回）となりました。

なお、観測値は現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。

問合せ先：観測部 計画課情報管理室 道城・村井  
電話 03-3212-8341（内線 4156） FAX 03-3217-3615

①降水量の総和（1982年1月上旬～2020年7月上旬）

順位	年	月	旬	降水量の総和 (mm)	1地点あたり (mm)	備考
1	2020	7	上旬	208,308.0	216.1	令和2年7月豪雨
2	2018	7	上旬	207,526.5	215.3	平成30年7月豪雨
3	1985	6	下旬	199,078.0	206.5	
4	2017	10	下旬	191,532.0	198.7	
5	1990	9	中旬	191,325.0	198.5	
6	2014	8	上旬	173,754.0	180.2	平成26年8月豪雨
7	1999	6	下旬	161,027.5	167.0	
8	1995	7	上旬	156,514.0	162.4	
9	1989	9	上旬	154,334.0	160.1	
10	1983	9	下旬	146,924.0	152.4	

②1時間降水量50mm以上の発生回数（1982年1月上旬～2020年7月上旬）

順位	年	月	旬	発生回数	備考
1	2020	7	上旬	82	令和2年7月豪雨
2	2019	10	中旬	69	令和元年東日本台風
3	1993	9	上旬	67	
4	1998	9	下旬	66	
4	2012	7	中旬	66	平成24年7月九州北部豪雨
4	2018	7	上旬	66	平成30年7月豪雨
7	2014	8	上旬	65	平成26年8月豪雨
8	2016	9	中旬	59	
8	2017	9	中旬	59	
10	1990	9	中旬	58	

※備考欄には気象庁が名称を定めた気象現象を記載しています。